

富医ニュース

No.592 令和3年1月1日

一般社団法人 富田林医師会

会長 宮田 重樹

〒584-0082 富田林市向陽台1丁目3-38

TEL.(0721)29-1210 FAX.(0721)28-0858

E-mail: mail@tondabayashiishikai.jp

年末年始の 地域外来センターについて

当医師会管内の地域外来センターとして、富田林病院と金剛病院が対応して頂いております。

両センターとも年末は12月28日月曜日まで、年始は1月4日月曜日からとなっておりますが、金剛病院では12月30日水曜日の13時から16時まで受け付けて頂ける事となっております。

また、休日診療所では、12月21日から26日にかけて改修工事が行われ、年末年始の12月31日と1月3日が臨時的にPCR検査対応予定(指定時間内のみ)となっております。

休日診療所改修工事

12月21日から26日にかけて休日診療所の改修工事が行われました。

令和2年医師、歯科医師及び 薬剤師等の医療関係業務従事者の 届出並びに調査について

令和2年12月31日現在において医師の免許を所有している方、及び助産師、看護師、准看護師で業務に従事している方には、医師法等の関係法令に基づき届出票を提出していただく義務がありますので、各医院の調査対象職員に対する周知及び提出について、ご協力いただきますようお願いいたします。

記

1. 届出事項 令和2年12月31日現在の住所、従事先等
2. 届出票の提出期限 令和3年1月15日(金)
3. 届出先 大阪府富田林保健所(大阪府で取りまとめ国に提出します)
4. 留意事項 同封の届出票の枚数が不足する場合は、大阪府ホームページのビビットネットから印刷していただくか、複写で対応願います。

調 整 日

12月分 1月7日(木)
PM3:00まで

1月分 2月8日(月)
PM3:00まで

1 月 の 予 定

5日(火)・休日診療委員会
(休日診療所休憩室にて)

6日(水)・事務所仕事始め

7日(木)・調整日

8日(金)・理事会

12日(火)・学校医部会

13日(水)・救急災害医療委員会

18日(月)・訪問看護ステーション
運営委員会

22日(金)・広報調査委員会

26日(火)・感染症対策委員会

・広報調査委員会
(校正)



令和2年 12月定例理事会

日 時 令和2年12月11日(金)
13:30より
場 所 医師会 大会議室

会長挨拶

報告事項

1) コロナ関連

- 高齢者施設等への重点的な検査の徹底について
- コロナ自宅療養者への電話・情報通信機器による医療サポートについて
- 大阪府における発熱患者等の相談および診療・検査体制について
- 年末年始の診療・検査体制の確保について
- 医療機関におけるコロナ感染拡大防止等支援事業補助金の実績報告について
- 新型コロナウイルス感染症対応「日本医師会休業補償制度」について
- 地域の医療機関向けマニュアルの送付について(HER-SYS関係)

- 2) 感染拡大防止のため管轄内の休日診療所受診について(休日診療委員会)
- 3) 年末年始のPCR検査について(休日診療委員会)
- 4) 患者さんへの啓発ポスターについて(感染症対策委員会)
- 5) 議事録作成について
- 6) 医師の届け出、看護師の業務従事者届について
- 7) 2/4多職種のZOOM会議について

協議事項

- 1) 入退会の件
- 2) 大阪府医師協同組合の開業支援課ホームページ新設について
- 3) 太子町健康マイレージ事業後援名義使用について
- 4) 関西電力から医師協電気への変更について

富田林医師会WEB学術講演会

日 時 2021年2月18日(木) 14:00~15:00
視聴方法 本公演会は「Microsoft Teams」にて配信致します。お申し込みは下記まで。担当者よりご連絡をさせていただきます。

【特別講演】 14:00~15:00

座 長 くにさだ医院 國定 慶太 先生
「高齢化社会における慢性腎臓病(CKD)

～かかりつけ医と専門医とのコラボレーション～

演 者 大阪南医療センター

腎臓内科医長・血液浄化センター医長

安東 豊 先生

※カリキュラムコード18(全身倦怠感)、66(乏尿、尿閉)

【申込先】

協和キリン株式会社 堺営業所

FAX.072-222-1814

※FAXでご返送される場合は、本講演会へご招待する為、e-mailアドレスのご記入を必ずお願い致します。

masaaki.sanou.jj@kyowakirin.com

70周年記念誌作成予定による 原稿依頼

今年度作成予定の70周年記念誌の会員紹介で診療所名、所在地、電話番号、医師氏名、専門分野、ライフワーク、趣味、顔写真1枚を掲載する予定です。

会員各位ご協力よろしくお願いたします。

医師会 FAX.0721-28-0858

メール mail@tondabayashiishikai.jp

医院名		顔写真
医師名		
所在地		
TEL/FAX		
専門分野		
ライフワーク		
趣味 (いくつでも)		

FAXまたはメールでご返信ください。

顔写真はメールまたはご持参、郵送でお願い致します。

専門医より一言



『当院における循環器診療 ～コロナ禍の対応を含めて』

済生会富田林病院
循環器内科・総合内科
谷口 貢 先生

2016年4月、宮崎院長就任以来、当院は地域の住民に安心できる医療を提供すべく、断らない医療をモットーに今日まで診療を続けている。特に我々が担う循環器診療は命に直結する救急疾患が多く、365日24時間救急を受け入れる体制が望ましい。現在、月の2/3程度の日数、夜間・休日も日勤帯と同様の循環器診療を行えるべくオンコール体制を敷いており、救急隊、地域の先生方に翌月のスケジュールをお知らせしている。今後は全日同様の体制を組めるべく努力したい。

循環器の個々の疾患について最近の話題を少し紹介させていただく。

急性心筋梗塞などの虚血性心疾患に関しては冠動脈ステント挿入術が主たる治療であり、薬剤溶出性ステント (DES) の使用頻度が増えている。ステント挿入後一定期間2剤の抗血小板療法 (DAPT) が必要となり、心房細動を合併している場合さらに抗凝固薬1剤、計3剤の抗血栓薬を服用する場合がある。ステントの改良、また、蓄積された抗血栓療法のエビデンスから、最近ではこの複数の抗血栓薬服用期間をなるべく短縮する方向に向かっており、医師会の先生方から紹介いただき治療後逆紹介をさせていただく様な場合、上記の情報なども適宜お伝えするつもりである。

心不全患者の増加に伴い“心不全パンデミック”とも言われている昨今である。心不全悪化を繰り返す度に心機能の更なる低下、ADL低下を来し、生命予後を短縮することはよく知られている。いかに再入院・再増悪を防ぐかが重要であり、医療経済的な観点からも心不全悪化の予防に対して国も推進している。大阪ではOSHEF (大阪心不全地域医療地域連携の会) という枠組みがあり、当院も南大阪の基幹病院として

登録している。また、現在当院では外来集団心臓リハビリテーションを拡充しており、理学療法士を中心に多職種カンファレンスなどを利用し心不全管理を行っている。今後、医師会の先生方との連携を強化しながら、心不全患者の管理に取り組みたい。

その他、不整脈、動脈・末梢血管疾患、肺循環などすべての循環器疾患に対応できる体制を整えており、今後も引き続き医師会の先生方からの患者紹介をよろしく願います。

今年は、コロナ一色の1年であり、当院も少なからず影響を受けた。受け入れ体制については今まで2床であったが、昨今の感染者数増加に伴い、2020年12月からは3床、2021年1月からは4床を新型コロナ感染者用として確保している。救急・発熱外来にも疑われる患者が多く来院される。当院の方針は最初にも述べた様に断らない医療を提供することであり、感染防御を徹底しつつ、他の疾患患者も普段通り受け入れることを両立できる様、今まで全職員を対象にシミュレーションを繰り返して行った。その甲斐あってか、2020年11月からの新病院移行後、外来・入院患者は増加しており、今後も同体制を継続し、医師会の先生方、地域の住民に信頼していただける病院となるよう努めたい。

『新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と インフルエンザの同時流行に備える



～診断・治療と感染対策の
ポイント～』

大阪はびきの医療センター
臨床研究センター
センター長 橋本 章司 先生

COVID-19の第3波を迎え、インフルエンザとの同時流行に備えた診断・治療と感染対策が必要です。今回は、両者の症状・臨床経過、感染経路と感染対策の共通点・相違点と、両者の診療の話題をお話しました。

COVID-19は『いつもと違う長引く発熱と倦怠感』でまず疑い、『労作性・吸気性の呼吸困難と下痢』で重症化を疑います。特徴的な症状がなく、発熱等で両者が疑われる場合には、診療と検査の指針に従い、感染対策の上、『唾液の抗原検査』で新型コロナを『鼻腔ぬぐい液の抗原検査』でインフルエンザを診断します。

感染対策では両者のウイルス排泄期間と感染経路の理解が必要です。新型コロナウイルスは眼・鼻・口から侵入し(眼が重要!)、感染後の鼻咽頭と口腔(舌と唾液腺)の上皮細胞で増殖し、誤嚥などで肺の細気管支・肺胞の上皮細胞に侵入・増殖して肺炎を起こし、血液中に入り内皮細胞を傷害して血栓症を起こします。鼻咽頭と口腔内のウイルスは潜伏期(発症数日前)が一番多く、主に飛沫・接触で眼・鼻・口から感染するため、①自分の眼・鼻・口に触れる前の手指消毒と、②(発熱や咳がなくても)近距離で話しかける時のマスク着用の遵守が必要です。インフルエンザとCOVID-19の感染対策は『医のココロ』(感染対策#332外食のとき、毎日放送11月28日)動画でご確認ください。

高齢者や基礎疾患患者では、罹患時の重症化に備えた予防策が必要です。COVID-19では生活習慣病の改善(減量、禁煙、治療強化)、排痰指導、眠前の口腔ケアと殺菌性うがい重要です。インフルエンザは今シーズンも発生は少数ですが、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの併用接種、ワクチン効果の低いA/H3N2香港型の流行に備えた抗インフルエンザ薬の予防投与が重要です。

最後に、COVID-19では「病気⇒不安⇒差別による負の連鎖」を断ち切るための、医療者・患者・支援者の心のケアと「皆が同じ気持ちでこの恐怖に立ち向かう」意識の共有が重要です。皆様と共に感染症診療に励む当センターに、ご支援をお願いいたします。



12月行事・会合

- 1日(火)・休日診療委員会
- 4日(金)・耳鼻科医会
- 7日(月)・会長副会長連絡会議
- 8日(火)・調整日
- 9日(水)・学術講演会
- 11日(金)・理事会
- 18日(金)・広報調査委員会
- 21日(月)・訪問看護ステーション運営委員会
- 22日(火)・広報調査委員会(校正)
- 28日(月)・事務局仕事納め



- 会員数(1月1日現在) 182名
 A会員 94名 B会員 87名 C会員 1名
- 入会 なし
- 退会 なし
- 異動 なし

広報調査委員会

委員長	齊藤 謙介	副委員長	森井 秀樹
委員	青山 賢治 江村 俊也 遠山 佳樹 山本 善哉	天城 完二 奥野 敦史 中村 元 山村 友良	植村 匡志 尾多賀雅哉 藤岡 洋